

第1章 計画の背景

1. 計画策定の背景

今日の環境問題は、身近な生活環境から地球規模のものまで多岐にわたっています。私たちが行う通常の事業活動や日常生活においても環境への負荷が増大し、地球環境に影響を及ぼしています。特に化石燃料の消費に伴う二酸化炭素などの温室効果ガスの排出は、地球温暖化の最大の原因と考えられています。地球温暖化の進行は、私たちの生活に大きな影響を与えるとともに、異常気象の増加、気候の変動による自然や生活の変化などにより、本市の事務・事業にも大きな影響を及ぼすことが予測されます。一方で、本市の事務・事業活動からも温室効果ガスは排出されています。本市は市内事業所としては規模も大きく、温室効果ガス排出抑制に関して大きな責任を担っています。

本市では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」（以下、「温対法」という。）に基づき、すべての事務及び事業に伴って排出される温室効果ガスの削減を目的として、平成19年12月に「宜野湾市地球温暖化防止実行計画」を策定しました。また、平成20年6月には温対法が改正され、本計画が「地方公共団体実行計画（事務事業編）」として位置づけられました。

その後、平成24年3月には、市域からの温室効果ガス排出量削減を目的とした「宜野湾市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」（以下、「区域施策編」という。）を策定し、市民・事業所・行政が連携して取り組む温暖化対策をスタートさせました。さらに、平成25年3月には、この計画の推進母体となる「宜野湾市地球温暖化対策地域協議会」（以下、「地域協議会」という。）を設立し、本市の地域特性を生かした温暖化対策について協議を進めることとなりました。

【国の動向】：「京都議定書目標達成計画」が平成25年度末をもって終了すること等を勘案し、平成25年3月には、国の地球温暖化対策推進本部にて今後の地球温暖化対策に関する基本方針が決定され、京都議定書第2約束期間の不参加、2020年までの削減目標のゼロベース見直し等を行う状況となっています。

【県の動向】：沖縄県は、これまで「沖縄県地球温暖化対策地域推進計画」を策定し取組を推進しており、平成22年度には、国内外の動向やこれまでの取組状況等を踏まえ、計画の内容を見直し、「沖縄県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定しています。

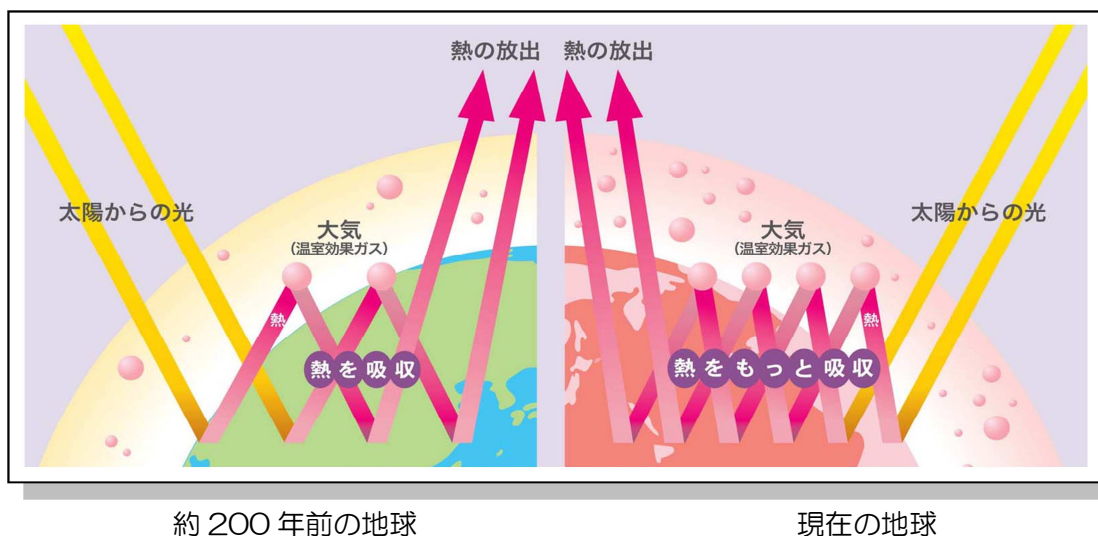
このような国・県及び本市の状況変化や現在の「宜野湾市地球温暖化防止実行計画」の計画期間が満了したこと、さらに「区域施策編」との整合を図るため、これまでの計画を見直し新たに「宜野湾市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」（以

下、「エコ計画」という。)を策定しました。

2. 地球温暖化問題とは何か

(1) 地球温暖化のメカニズムと原因

地球は、太陽からのエネルギーで暖められ、暖められた地球からも熱が放射されます。大気に含まれる二酸化炭素などの温室効果ガスは、この熱を一部吸収し、再び地表に跳ね返しています。そのおかげで地球の平均気温は15℃と人間をはじめ生物が生きるのに適した環境が保たれています。

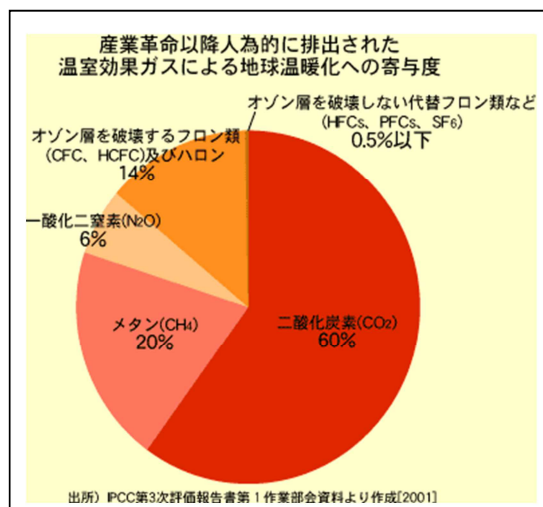


しかし、19世紀以降、産業の発展に伴い人類は石炭や石油などの化石燃料を大量に消費するようになり、二酸化炭素などの温室効果ガスの大気中濃度は増加し、熱の吸収が多くなったため地表面の温度が上昇しています。これが**地球温暖化**です。

(2) 増え続ける温室効果ガス

地球温暖化の原因になっている温室効果ガスには様々なものがありますが、石油や石炭など化石燃料の燃焼などによって排出される二酸化炭素が最大の温暖化の原因と言えます。

二酸化炭素の濃度は、1750年（産業革命以前）の280ppmから2005年は379ppmへと35%も増加しており、地球史上過去2万年で最大の増加率とされています。

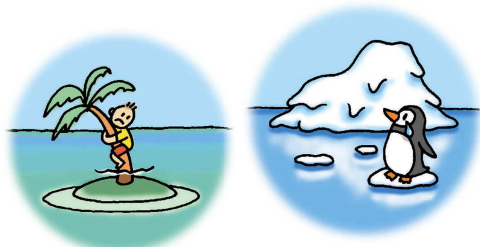


(3) 地球温暖化における影響について

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、このままでは2100年の地球の平均気温は、温室効果ガスの排出量が最も少なく抑えられた場合でも平均1.8度（予測の幅は1.1～2.9度）の上昇、最も多い場合は平均4.0度（予測の幅は2.4～6.4度）上昇すると発表しました（2007年）。

地球温暖化の影響予測

①海水の熱膨張や氷河が溶けて、海面が最大88cm上昇します。南極の「棚氷」が溶けるとさらに海面が上昇します。



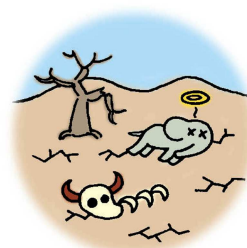
②現在絶滅の危機にさらされている生物は、ますます追い詰められ、さらに絶滅に近づきます。



③マラリヤなど熱帯性の感染症の発生範囲広がります。



④降雨パターンが大きく変わり、内陸部では乾燥化が進み、熱帯地域では台風、ハリケーン、サイクロンといった熱帯性の低気圧が猛威を振るい、洪水や高潮などの被害が多くなります。



⑤気候の変化に加えて、病虫害の増加で穀物生産が大幅に減少し、世界的に深刻な食糧難を招く恐れがあります。



全国地球温暖化防止活動推進センターの資料より

地球温暖化による気温の上昇、降水量の変化などによって、自然の生態系も深刻な影響を受けます。しかし、目に見える変化は気候が変化した後、数年、数十年、数百年と遅れて起こるため気づいたときに手遅れとならないよう早急に対応していく必要があります。